

# 大学の世界展開力強化事業 構想概要 北海道大学

## 【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(Ⅰ))

人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN地域における人口・活動・資源・環境(PARE:Populations-Activities-Resources-Environments)の負の連環の解決のフロンティアを担う人材育成のため、インドネシア・タイの6協定校との国際連携教育システムの構築を図ることを目的とする。PAREの負の連環の解決に必要な不可欠な能力として定義した4つの力、フィールド研究力、多様性容認力、開拓力及び課題解決力を備え、ASEAN地域の発展に主導的な役割を担うことのできる人材を養成する。

## 【構想の概要】

インドネシア、タイの6協定大学とのPARE大学院教育コンソーシアムにおける協働教育を通じて、分野横断的教育の質の保証、フィールドとラボの教育連携モデルの形成及び異分野専門家集団PARE同窓生ネットワークの形成を促し、もって、アジアのフィールドにおいて同地域の発展に資する人材の輩出及びネットワーク形成を図る。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組

### 形成に向けた取組

- 成績評価の共通化による厳格な成績管理
- 「PAREプログラム履修ガイド」における履修(互換)科目及び履修プロセスの公開による学修プロセスの明確化
- OFDの協働実施、教科書共同作成を通じた教育の質向上の取り組み
- 外部評価委員会及びコンソーシアム外の大学との教育交流研究会を通じた質の高いプログラムの継続的提供体制の整備

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

### ○ 交流プログラムの内容

- ・共通科目(講義、サマースクール)の共同開講
- ・進路に応じたコンソーシアム内留学プログラムの提供
- ・共同講義、教科書作成、FD、成績評価・修了認定を通じた実質的な教員陣の連携

### ○ 今後の開始に向けた準備状況

- ・全大学の代表者による「PARE運営委員会」の招集及び事業の実施計画、スケジュールの作成
- ・平成24年度は、準備フェーズとして位置付け、平成25年の夏に本学で開催予定のサマースクールをもって、本格稼働させる。
- ・学生相互受入・派遣は平成25年9月から行う。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

サマースクールにおける英語でのグループ討論、留学先の提携校が提供する講義科目の受講及び派遣先でのフィールドワークの実施

### ○ 外国人留学生の受入れ

サマースクールでのグループ討論、本学において提供する科目の受講及び本学の優れた研究環境における研究の実施

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

- 北大内に設置するセントラルオフィス及び提携先の大学に設置するリエゾンオフィスにおいて留学中の北大学生・提携先からの留学生に対する学修・生活等に関するワンストップサービスを提供
- 各種就職支援プログラムの提供(企業の採用担当者との意見交換会、北大国際戦略説明会(仮称)の設置・開催)

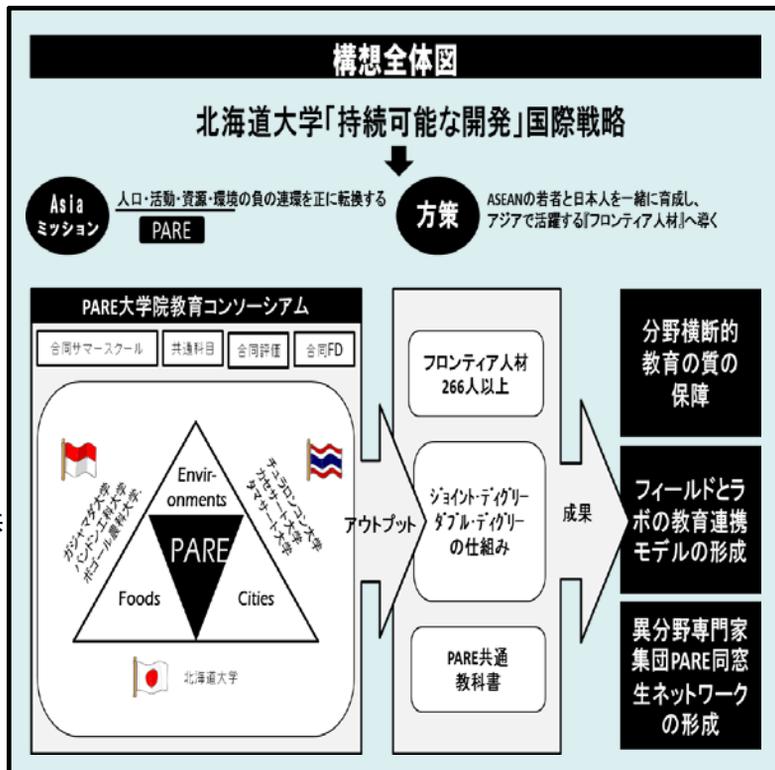
## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ 教育内容の可視化

本構想のプログラム履修ガイド及び事業の進捗状況をウェブ等で公開する。

### ○ 成果の普及

本構想により確立された国際連携教育システムをモデルケースとして全学で共有し、かつ他の分野、他の地域との同種の取り組みに活用・展開する。



	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	13	30	30	30	30
学生の受入	13	30	30	30	30

(注)申請時の計画

# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 北海道大学

【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN地域における人口・活動・資源・環境(PARE: Populations-Activities-Resources-Environments)の負の連環の解決のフロンティアを担う人材育成のため、インドネシア、タイの6パートナー大学との国際連携教育システムの構築を図ることを目的とする。PAREの負の連環の解決に必要な不可欠な能力として定義した4つの力(フィールド研究力、多様性容認力、開拓力及び課題解決力)を備え、ASEAN地域の発展に主導的な役割を担うことのできる人材を養成する。

【構想の概要】

インドネシア、タイの6パートナー大学とのPARE大学院教育コンソーシアムにおける協働教育を通じて、分野横断的教育の質の保証、フィールドとラボの教育連携モデルの形成及び異分野専門家集団PARE同窓生ネットワークの形成を促し、もってアジアのフィールドにおいて同地域の発展に資する人材の輩出及びネットワーク形成を図る。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 国際運営委員会、国内運営委員会及び教育コンテンツ委員会を設置した。これら委員会の枠組みを通じて、プログラムの運営体制を確立するとともに、教育プログラムの実施体制・内容について方針を決定した。
- 平成25年3月に国際運営委員会メンバーによるファカルティ・ディベロプメント(FD)ワークショップを開催。本プログラムの質の向上に関して、議論を行った。



〈国際運営委員会〉

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

- 平成24年度実施の交流プログラムの内容  
準備フェーズとして、平成25年1月から4月にかけて、パートナー大学との間で学生の派遣・受入を試行的に実施。  
4月20日および5月7日の2回に分けて派遣学生の帰国報告会を開催し、学生にPAREプログラム参加証を授与。



〈FDワークショップ〉

- 平成25年度本格稼働に向けた準備状況  
・本学におけるサマースクールの開催(平成25年8月15日～27日)に向け、国際運営委員会等において、プログラムの内容及び募集スケジュール等を協議・決定し、人選を開始。  
・インドネシア、タイの6パートナー大学との間のセメスター単位での学生相互受入・派遣についても、国際運営委員会等で協議し、人選を開始。  
・平成26年3月に、カセサート大学(タイ)でスプリングスクールを開催する準備を開始。



〈平成24年度派遣学生報告会〉

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

サマースクールおよびスプリングスクールにおける英語でのグループ討論、留学先のパートナー校が提供する講義科目の受講及び派遣先でのフィールドワークの実施

### ○ 外国人留学生の受入れ

サマースクールでのグループ討論、本学において提供する科目の受講及び本学の優れた研究環境における研究の実施

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	17	30	30	30	30
学生の受入	18	30	30	30	30

注)H24は実績、H25以降は計画

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

- 北大内に設置するセントラルオフィス及び各提携大学に設置するリエゾンデスクにおいて留学中の北大学生・提携先からの留学生に対する学修・生活等に関するワンストップサービスを提供
- 今後、各種就職支援プログラムの提供(企業の採用担当者との意見交換会、北大国際戦略説明会(仮称)等の開催)を検討

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ 教育内容の可視化

本構想のプログラム履修ガイドについては、本プログラムのウェブサイト(<http://www.4pare.org/>)で公開を予定。

事業の進捗状況については、本学ウェブサイト上(<http://www.hokudai.ac.jp/international3/ryugaku/pare/view/>)で公開している他、ブログでも公開中(<http://pareproject.blogspot.jp/>)。

### ○ 成果の普及

今後、本構想により確立された国際連携教育システムをモデルケースとして全学で共有し、かつ他の分野、他の地域との同種の取り組みに活用・展開する予定。

# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 北海道大学

## 【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN地域における人口・活動・資源・環境(PARE: Populations-Activities-Resources-Environments)の負の連環の解決のフロンティアを担う人材育成のため、本学とインドネシア、タイの6パートナー大学(カセサート大学、ガジャマダ大学、タマサート大学、チュラロンコン大学、バンドン工科大学、ポゴール農科大学)がPARE大学院教育コンソーシアムを形成し、国際連携教育システムの構築を図ることを目的とする。PAREの負の連環の解決に必要な不可欠な能力として定義した4つの力(フィールド研究力、多様性容認力、開拓力及び課題解決力)を備え、ASEAN地域の発展に主導的な役割を担うことのできる人材を養成する。

## 【構想の概要】

PARE大学院教育コンソーシアムにおける協働教育を通じて、分野横断的教育の質の保証、フィールドとラボの教育連携モデルの形成及び異分野専門家集団PARE同窓生ネットワークの形成を促し、もってアジアのフィールドにおいて同地域の発展に資する人材の輩出及びネットワーク形成を図る。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 厳格な成績の管理のため、プログラムを通じて何を修得したか等、学生の「4つの力」を図る自己評価表(セルフアセスメントシート)を作成し、プログラムの参加前と参加後に学生に記入させ、評価の対象とした。また、全パートナー大学の教員が参加して、学生が修得した「4つの力」について合同で評価するための評価表を作成し、試行的に評価を行った。
- 平成25年10月に第2回合同ファカルティ・デベロプメント(FD)ワークショップを開催。「目標設定と評価」について学び、合同評価表の改善のための参考とした。
- 質の高いプログラムを継続的に提供する体制の整備のために、平成26年3月に「ASEANと日本における教育連携システムの発展を目指して」と題し、第1回教育交流勉強会を開催。本学の他、慶応義塾大学と神戸大学の教員および事務担当者が出席した。



〈教育交流勉強会〉

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

### ○ 平成25年度実施の交流プログラムの内容

英語で開講される「PARE基礎科目」(「PARE基礎論」と「PAREショートプログラム」, 必修)と、各大学院の特色を生かした「PARE発展科目」「PARE専門科目」(選択)の講義体系を構築し、以下の通り、交流プログラムを実施した。

- ・「PARE基礎論(3単位)」を本学で開講(平成25年6月～8月上旬)し、本学学生21名が札幌キャンパスで、パートナー大学の学生3名がインターネットを通じ受講した。
- ・「PAREショートプログラム(3単位)」を、北海道(「PAREサマースクール2013」, 平成25年8月15日～27日)で開講し、学生37名、教員5名が参加した。また、同様にタイ(「PAREスプリングスクール2014」, 平成26年2月17日～28日)で開講する予定であったが、タイ政府による「非常事態宣言」発令により開講を延期した。
- ・1セメスター以上留学した学生は、各大学が提供する「PARE発展科目」「PARE専門科目」を受講し、単位を取得し、母校で認定を受けた。
- ・本プログラムの修了要件を満たしたバンドン工科大学の学生2名に対し、双方の大学の副学長が署名したPARE共同修了証を授与した。



〈平成25年度サマースクール〉

### ○ 平成26年度に向けた準備状況

「平成26年度履修の手引き」を日本語と英語で作成し、各大学で3月末から学生の募集を開始した。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	17	3	30	30	30
学生の受入	18	40	30	30	30

### ○ 日本人学生の派遣

- ・タイの「スプリングスクール2014」に、本学学生21名の派遣を予定していたが、タイ政府による「非常事態宣言」の発令により派遣を延期した。

- ・インドネシアのポゴール農科大学に1名、タイのカセサート大学に2名の学生を、それぞれ1セメスター派遣した。

注)H24・H25は実績、H26以降は計画

### ○ 外国人留学生の受入れ

- ・本学で開講したサマースクールに、全パートナー大学から学生計27名を受入れた。
- ・本学の特別聴講学生として、パートナー大学の学生12名を受入れた(そのうち2名は「サマースクール2013」にも参加)。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

- 本学に設置したセントラルオフィスと各パートナー大学に設置したリエゾンデスクが連携し、学生の派遣・受入に必要な手続きを行うとともに、学生寮など安価な宿泊施設の確保、語学(日本語、現地語)授業の提供等を行った。また、インターネットを通じた渡航前オリエンテーションを行った。
- スプリングスクールに参加する学生が、日本企業のインドネシアやタイ駐在員事務所で働く北大同窓生と交流する機会を設けるため、北大同窓生向け懇親会を企画したが、タイ政府による「非常事態宣言」の発令によって延期した。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

- プログラムのパンフレットを作成した他、履修ガイドや進捗状況をプログラムのウェブサイト(<http://www.4pare.org/>)や、ブログ(<http://pareproject.blogspot.jp>)等で公開した他、大学関係者が集まる国内・外の会議でプログラムを紹介した。

# 大学の世界展開力強化事業 H26 取組概要 北海道大学

## 【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN地域における人口・活動・資源・環境(PARE: Populations-Activities-Resources-Environments)の負の連環の解決のフロンティアを担う人材育成のため、本学とインドネシア、タイの6パートナー大学(カセサート大学、ガジャマダ大学、タマサート大学、チュラロンコン大学、バンドン工科大学、ポゴール農科大学)がPARE大学院教育コンソーシアムを形成し、国際連携教育システムの構築を図ることを目的とする。PAREの負の連環の解決に必要な不可欠な能力として定義した4つの力(フィールド研究力、多様性容認力、開拓力及び課題解決力)を備え、ASEAN地域の発展に主導的な役割を担うことのできる人材を養成する。

## 【構想の概要】

PARE大学院教育コンソーシアムにおける協働教育を通じて、分野横断的教育の質の保証、フィールドとラボの教育連携モデルの形成及び異分野専門家集団PARE同窓生ネットワークの形成を促し、もってアジアのフィールドにおいて同地域の発展に資する人材の輩出及びネットワーク形成を図る。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 平成25年度に構築した「学生による自己評価表(セルフアセスメントシート)」の記入「コンソーシアム大学による共同評価」を継続して実施することで、厳格な成績の管理を行ない、同枠組みの定着化を図った。
- 平成27年1月に第3回合同ファカルティ・ディベロップメント(FD)ワークショップを開催。本学同様「大学の世界展開力強化事業」採択校である慶應義塾大学教授を講師として迎え、オンラインによる授業運営に関する最新の教育方法について学んだ。
- 平成26年11月に外部評価委員会を開催し、これまでの取組の評価を行なうとともに、補助金支援終了までの2年間で検討すべき課題を整理した。また課題解決のため、将来展開ワーキンググループを設立した。



(外部評価委員会)

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

### ○ 平成26年度実施の交流プログラムの内容

平成25年度に構築した「PARE基礎科目」「PARE基礎論」と「PAREショートプログラム」「PARE発展科目」「PARE専門科目」の講義体系に沿い、交流プログラムを以下のとおり実施。  
・「PARE基礎論I, II, III(各1単位)」を本学で開講し、本学および海外のパートナー大学の学生計162人以上が受講した。基礎論IIIは、電子教材を用いたインターネット上での講義受講とディスカッションを中心とした教室での講義を組み合わせで実施した。  
・「PAREショートプログラム(3単位)」を、北海道(平成25年8月28日～9月11日、15日間)、およびインドネシア(平成27年3月9日～20日、12日間)で開講し、本学およびパートナー大学の学生計87名が受講した。6月にタイで「PAREショートプログラム」を開講し、学生計39名が受講予定であったが、タイ国軍による「戒厳令」発令をうけ、開講を中止した。



＜平成26年度ショートプログラム @インドネシア＞

- ・本学およびパートナー大学が提供する「PARE発展科目」「PARE専門科目」を33名の学生が受講し、単位を取得した。
- ・本プログラムの修了要件を満たした学生31名に対し、双方の大学の副学長が署名したPARE共同修了証を授与した。

### ○ 平成27年度に向けた準備状況

平成27年6～7月、8～9月、1～2月に「PARE基礎論」、8月25日～9月8日に北海道で、3月7日～21日にタイで「PAREショートプログラム」を開講することを決定した。「平成27年度履修の手引き」を日本語と英語で作成し、各大学で3月末から学生の募集を開始した。また、平成27年度「PAREインターンシップ」科目開講に向け、学生の試行的派遣を実施した。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

- ・インドネシアの「スプリングスクール2015」に、18名を派遣。
- ・インドネシアのポゴール農科大学に1名、ガジャマダ大学に1名の学生を、それぞれ1セメスター派遣。インターンシップ科目の試行により、タイのカセサート大学に学生4名を派遣。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	17	3	24	30	30
学生の受入	18	40	72	30	30

注)H24・H25・H26は実績、H27以降は計画

### ○ 外国人留学生の受入れ

- ・本学で開講したサマースクールに学生計41名を受入。また学生31名を本学の特別聴講学生として受入。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

- 本学に設置したセントラルオフィスと各パートナー大学に設置したリエゾンデスクが連携し、学生の派遣・受入に必要な手続を行うとともに、学生寮など安価な宿泊施設の確保、語学(日本語、現地語)授業の提供等を行った。また、インターネットを通じた渡航前オリエンテーションを行った。
- 日本企業のインドネシア駐在員事務所で働く北大同窓生と交流する機会を設けるため、北大同窓生向け懇親会を開催し、スプリングスクールを受講した学生も参加した。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

- プログラムのパンフレットを作成した他、履修ガイドや進捗状況をプログラムのウェブサイト(<http://www.4pare.org/>)や、ブログ(<http://pareproject.blogspot.jp>)等で公開した他、大学関係者が集まる国内・外の会議でプログラムを紹介した。
- プログラムの教育内容と成果の普及のため、プログラムを紹介する冊子を作成した。

# 大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 北海道大学

## 【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN地域における人口・活動・資源・環境(PARE: Populations-Activities-Resources-Environments)の負の連環の解決を担うフロンティア人材育成のため、本学とインドネシア、タイの6パートナー大学(カセサート大学、ガジャマダ大学、タマサート大学、チュラロンコン大学、バンドン工科大学、ポゴール農科大学)がPARE大学院教育コンソーシアムを形成し、国際連携教育システムの構築を図ることを目的とする。PAREの負の連環の解決に必要な不可欠な能力として定義した4つの力(フィールド研究力、多様性容認力、開拓力及び課題解決力)を備え、ASEAN地域の発展に主導的な役割を担うことのできる人材を養成する。

## 【構想の概要】

PARE大学院教育コンソーシアムにおける協働教育を通じて、分野横断的教育の質の保証、フィールドとラボの教育連携モデルの形成及び異分野専門家集団PARE同窓生ネットワークの形成を促し、もってアジアのフィールドにおいて同地域の発展に資する人材の輩出及びネットワーク形成を図る。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○12月4日に、「ASEANと日本における教育連携システムの発展を目指して」をテーマに教育交流研究会を開催し、大学院(修士課程)熱帯水産学国際連携プログラムをタイのカセサート大学等と共同で運営している鹿児島大学水産学研究院との間で、意見交換を行った。

○「学生のモビリティ向上の課題とプログラムの広報」をテーマに、野村証券研究所の北村倫夫氏を講師として、第4回合同ファカルティデベロップメント(FD)を開催した(2月18日)。

○7月にレディング大学(英国)、8月にトゥールーズ第3ポール・サバティエ大学(フランス)、10月にメイン大学(米国)、11月にオハイオ大学(米国)からトップクラスの教員を招聘し、英語で共同講義を行った。



〈レディング大学教員による共同講義〉

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

### ○ 平成27年度実施の交流プログラムの内容

すでに構築したPARE大学院共同教育カリキュラムの講義体系に沿い、交流プログラムを以下のとおり実施した。

・「PARE基礎論I, II, III(各1単位)」を本学で開講し、本学および海外のパートナー大学の学生計168人が受講した。全科目について、電子教材を用いたインターネット上での講義の事前受講とディスカッションを中心とした講義を組み合わせ実施した。

・「PAREショートプログラム(3単位)」を、「PAREの連環:土地、水、食、エネルギー資源の持続的利用と管理」というテーマで、北海道(平成27年8月25日～9月8日、15日間)、およびタイ(平成28年3月7日～21日、15日間)で開講し、本学およびパートナー大学の学生計71人が受講した。各ショートプログラムの最終日には報告会を行ない、7大学の教員で共同評価を行った。

・本学およびパートナー大学が提供する「PARE発展科目」「PARE専門科目」を46名の学生が受講し、単位を取得した。



〈平成27年度ショートプログラム @タイ〉

### ○ 平成28年度に向けた準備状況

「PARE基礎論(I～III)」の開講日程の調整を行なうとともに、新たに開設する「PARE基礎論IV」の準備を開始した。平成28年8月30日～9月13日に北海道で、平成29年2月14日～28日にインドネシアで「PAREショートプログラム」を開講することを決定した。「平成28年度履修の手引き」(日本語・英語)、募集チラシ(日本語・英語)を作成、新入生用に配布の準備を行った。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	17	3	24	26	30
学生の受入	18	40	72	73	30

注)H24～H27は実績、H28は計画

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

・タイの「スプリングスクール2016」に、本学より18名(内正規留学生7名)派遣した。

・インドネシアのポゴール農科大学に2名、タイのカセサート大学に1名、タマサート大学に1名、チュラロンコン大学に2名の学生を派遣した。また、学部生用プログラムの開発のため、ポゴール農科大学に学部3年生2名を試行的に派遣した。

### ○ 外国人留学生の受入れ

・本学で開講したサマースクールに学生計33名を受入れ、また学生40名を本学の特別聴講学生として受入れた。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

・「PAREインターンシップ」科目を新設した。また、インドネシアやタイに進出している企業や、同企業を支援している金融機関等と面談時には、本事業のパンフレットを配布した。また、インドネシア・タイの受入先大学を通じ、同大学と関連の深い機関・企業等の紹介を受け、学生を派遣した。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

・北海道大学がホストとなり開催した第3回日本・インドネシア学長会議の分科会(11月5日)において、ポゴール農科大学、バンドン工科大学、ガジャマダ大学の3大学が共同でPAREプログラムについて発表した。

# 大学の世界展開力強化事業 H28取組概要 北海道大学

## 【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN地域における人口・活動・資源・環境(PARE: Populations-Activities-Resources-Environments)の負の連環の解決を担うフロンティア人材育成のため、本学とインドネシア・タイの6パートナー大学(カセサート大学、ガジャマダ大学、タマサート大学、チュロンコン大学、バンドン工科大学、ボゴール農科大学)がPARE大学院教育コンソーシアムを形成し、国際連携教育システムの構築を図ることを目的とする。PAREの負の連環の解決に必要な不可欠な能力として定義した4つの力(フィールド研究力、多様性容認力、開拓力及び課題解決力)を備え、ASEAN地域の発展に主導的な役割を担う人材を養成する。

## 【構想の概要】

PARE大学院教育コンソーシアムにおける協働教育を通じて、分野横断的教育の質の保証、フィールドとラボの教育連携モデルの形成及び異分野専門家集団PARE同窓生ネットワークの形成を促し、もってアジアのフィールドにおいて同地域の発展に資する人材の輩出及びネットワーク形成を図る。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 「大学院国際共同教育プログラムの効果的な広報のあり方」をテーマに、本学メディア・コミュニケーション研究院の北村倫夫教授を講師として、平成26年度採択の大学の世界展開力強化事業「極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム」と共同で、第5回合同ファカルティデベロップメント(FD)を開催した(3月30日)。
- 平成25年度に構築した「学生による自己評価表(セルフアセスメントシート)の記入」「コンソーシアム大学による共同評価」を継続して実施することで、厳格な成績の管理を行ない、同枠組みの定着化を図った。
- 平成28年9月に外部評価委員会を開催し、これまでの取組の評価を行なうとともに、補助金支援終了後のプログラム運営に関する課題を再整理した。また、フィールド活動における危機管理に留意した計画策定の徹底についても助言を得た。

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

### ○ 平成28年度実施の交流プログラムの内容

- ・「基礎論I、II、III」に加え「基礎論IV」を開講、レディング大学(イギリス)、タマサート大学(タイ)、愛知学院大学から教員を招へいし、本学教員と協働でより学際的な科目提供を行った。
- ・「PAREショートプログラム(3単位)」を「PAREの連環:土地、水、食、エネルギー資源の持続的利用と管理」というテーマで、北海道(平成28年8月30日～9月13日、15日間)およびインドネシア(平成29年2月14日～28日、15日間)で開講し、本学および協定校の学生計68名が受講した。各ショートプログラムの最終日には報告会を行い、7大学の教員で共同評価を行った。
- ・「PARE発展科目」、「PARE専門科目」および「PAREインターンシップ科目」取得のため、インドネシアおよびタイの協定校から6名の学生を本学に特別聴講生として受け入れ、また本学からインドネシアおよびタイの協定校へ学生3名を派遣した。



(タマサート大学教員による基礎論IVの講義)

### ○ 平成29年度に向けた準備状況

- ・平成29年度以降は、協定校にさらなる協力支援を仰ぎつつ、既存の学内共同教育制度を利用し継続することとした。具体的には、本学のサマーインスティテュート事業の一環として基礎論およびサマースクール科目を開講、協定校からの学生受入を継続する予定である。インドネシアまたはタイで開講するスプリングスクールについては、協定校から運営協力を得て平成29年度以降も開講予定であり、平成30年度以降は、本学の海外ラーニングサテライト事業の開講科目として申請を検討中である。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 外国人留学生の受入れ

本学で開講したサマースクールに学生計24名を受け入れ、さらに、学生6名を本学の特別聴講生として受け入れた。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	17	3	24	26	24
学生の受入	18	40	72	73	30

### ○ 日本人学生の派遣

インドネシアで開講されたスプリングスクールに、本学より22名(内正規留学生5名)を派遣した。3か月以上の派遣としては、タイのチュロンコン大学に1名、カセサート大学に1名、また、将来的に派遣先を広げていくことを念頭に置き、本学の協定校であるタイのアジア工科大学に試験的に1名、合計3名の派遣を行った。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備



(国際シンポジウム@ジャカルタ)

- 2016年10月11日2017年2月にジャカルタで国際シンポジウムを開催、本プログラム卒業生および本学OBと在インドネシアの日本企業との交流の場を設け、学生のインターンシップや就職先の開拓を進めている。そのほか、学内の留学説明会を年に5回程度継続的に開催している。
- 本学に設置したセントラルオフィスと各パートナー大学に設置したりエゾンデスクが連携し学生の派遣・受入に必要な手続きを行うとともに、安価な宿泊施設の確保をはじめとした本学からの派遣学生がインドネシアやタイにおいて、本学への受入学生が日本において生活する上で様々なサポートを行った。また、インターネットを利用して渡航前オリエンテーションを行った。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況・情報の公開・成果の普及

- 本プログラム関連科目のシラバスおよび事前学習のためのe-learning教材は全て英語で公開されており、募集案内および履修案内、ウェブサイトに関しては日本語版と英語版を作成し、教育内容や各種案内、学生の声といった関連情報を広く国内外に提供するよう努めた。こういった活動を通し、学生の国際流動性の強化及び教育の国際通用性の向上を図っている。